室町時代プリント

名前

問1　15世紀、琉球王国（現在の沖縄県）は東アジアと東南アジアを結ぶ海上の要所に位置していました。当時、琉球が中国や日本、東南アジア諸国から輸入した物品を、さらに別の国へ転売することで多大な利益を得ていた貿易の形態を何と呼びますか。（2024年 山梨公立入試 類似）

1. 中継貿易　2. 三角貿易　3. 南蛮貿易　4. 朱印船貿易

問2　中世の合戦の様子を描いた絵巻物において、徒歩で槍などの武器を手にし、組織的に行動する兵士たちの姿が細かく描写されている資料があります。このような室町時代における戦闘の変化について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。（2025年 愛媛公立入試 類似）

1. 名乗りを上げてから戦う一騎打ちから、歩兵が密集して戦う組織的な戦いへと変化した。
2. 鉄砲の伝来により、すべての武士が馬を捨てて銃を構える戦術が主流となった。
3. 幕府が農民から完全に武器を没収したため、訓練された少数の武士のみが戦うようになった。
4. 朝廷の権威が高まったことで、武力による解決ではなく話し合いによる解決が一般的になった。

問3　室町時代の中期、足利義政が京都の東山に建立した慈照寺銀閣に象徴される、禅宗の影響を受けた簡素で気品のある文化を何といいますか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 東山文化　2. 北山文化　3. 元禄文化　4. 天平文化

問4　応仁の乱の後、戦火で荒廃した京都の復興に尽力し、町の運営を自分たちで行った富裕な商工業者を中心とする人々を何と呼びますか。（2022年 徳島公立入試 類似）

1. 町衆　2. 馬借　3. 問　4. 五人組

問5　慈照寺（銀閣）にある東求堂の同仁斎は、書院造の代表的な遺構として知られています。この建築様式が成立した時期の文化について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2022年 千葉県公立入試 類似）

1. 足利義政が京都の東山に山荘を築き、禅宗の影響を受けた簡素で深い味わいのある文化が栄えた。
2. 足利義満が京都の北山に金閣を建て、公家文化と武家文化が融合した華やかな文化が栄えた。
3. 遣唐使の廃止に伴い、日本の風土や日本人の感情に合った国風文化が貴族の間で発達した。
4. 大名や豊かな商人の力を背景に、城郭建築や金碧障壁画などに代表される豪華で壮大な文化が栄えた。

問6　足利義政が建立した慈照寺（銀閣）の敷地内にあり、畳を敷きつめ、机として使われる「付け書院」や棚を備えた、現代の和室の原型とされる書院造の代表的な遺構は何ですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 東求堂同仁斎　2. 鹿苑寺舎利殿　3. 平等院鳳凰堂　4. 唐招提寺金堂

問7　室町時代、商人や手工業者が公家や寺社などの有力者に税を納めることで、商品の販売や製造を独占する権利を認められていた同業者組合を何といいますか。（2022年 三重公立入試 類似）

1. 座　2. 株仲間　3. 十組問屋　4. 五箇所商人

問8　鎌倉時代には月に3回開かれていた定期市が、室町時代には月に6回開かれる「六斎市」へと増加するなど、中世の日本国内では商業が活発になりました。このような商業の発展を支えた、貿易に関する背景として最も適切な説明を次から選びなさい。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 明から大量の銅銭が輸入され、各地の市場での決済に貨幣が普及したこと
2. 明から大量の金が輸入され、高額な取引が容易になったこと
3. 日本から明へ生糸を輸出することで、国内の養蚕業が衰退したこと
4. 日本が明の紙幣を導入し、持ち運びが便利な経済体制を築いたこと

問9　室町時代に大成された「能」が、現在まで続く伝統芸能として高い芸術性を持つに至った背景として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 佐賀公立入試 類似）

1. 幕府の将軍や守護大名が、自らの権威や教養を示すための儀礼的な芸能として保護・育成したため。
2. キリスト教の布教とともに伝来した西洋音楽の要素を取り入れ、新しい劇の形式を作ったため。
3. 応仁の乱で荒廃した京都の復興を願う民衆が、寺社の境内などで自由に風刺劇を演じたため。
4. 鎖国体制下において、日本独自の文字や言語を用いた庶民向けの娯楽として発展したため。

問10　室町時代に足利義満が始めた明との貿易において、わざわざ「勘合」と呼ばれる札を半分に分けて照らし合わせる方法が採用された目的として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 大阪公立入試 類似）

1. 倭寇と呼ばれる海賊による密貿易を防ぎ、正式な貿易船であることを証明するため
2. 朝鮮半島を経由せずに、直接中国の港へ入港する許可を個別に得るため
3. 幕府が独占していた金や銀の輸出量を、明の役人と正確に照合するため
4. 明の皇帝から授かった日本国王の称号が、世襲であることを確認するため

問11　応仁の乱以後、室町幕府の支配力が弱まったことで、各地で実力のある者が上の身分の者を倒して勢力を広げる社会的な風潮が見られるようになりました。このような風潮を何と呼びますか。（2016年 岐阜公立入試 類似）

1. 下剋上　2. 御恩と奉公　3. 寄合　4. 徳政

問12　室町時代に日本と明の間で行われた貿易において、正式な貿易船であることを証明するために「勘合」と呼ばれる合い札が使用された理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2016年 鳥取公立入試 類似）

1. 東アジアの沿岸で活動していた海賊である倭寇による密貿易を防止するため
2. キリスト教の布教を目的とした宣教師の入国を厳しく制限するため
3. 貿易によって得られた利益を幕府と明の政府で均等に分配するため
4. 輸入品である生糸の価格が国内で高騰するのを防ぐため

問13　室町時代に足利義満が開始した日明貿易（勘合貿易）において、日本が中国（明）から輸入した品物の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選びなさい。なお、当時の日本は国内で独自の貨幣を鋳造していなかったため、この貿易によって持ち込まれたものが国内の経済で広く流通しました。（2021年 京都公立入試 類似）

1. 銅銭・生糸・書籍　2. 銅・硫黄・刀剣　3. 綿織物・鉄・鉄砲　4. 銀・ガラス製品・経典

問14　日明貿易（勘合貿易）において、日本側の主な輸出品の組み合わせとして、適切なものはどれですか。（2020年 三重公立入試 類似）

1. 銅・刀剣（日本刀）・扇　2. 生糸・絹織物・陶磁器　3. 銀・鉄砲・キリスト教関連品　4. 香料・砂糖・象牙

答え合わせ・解説

問1	答え 1 中継貿易	琉球王国は、自国に大規模な産業や産品が少なかったため、地理的利点を活かして物流の拠点となりました。中国の磁器やシルクを日本へ、日本の銀や刀剣を中国へ、東南アジアの香辛料を東アジアへといったように、他国の品物を仲介して売買する「中継貿易」によって繁栄しました。
問2	答え 1 名乗りを上げてから戦う一騎打ちから、歩兵が密集して戦う組織的な戦いへと変化した。	室町時代には、社会の混乱が続く中で戦争が長期化・大規模化しました。そのため、個々の武士が名乗りを上げて戦う伝統的な形式よりも、足軽などの歩兵を集団として運用し、数や組織力で圧倒する戦術が重視されるようになりました。この変化は、後の戦国時代の戦術の発展にも大きな影響を与えました。
問3	答え 1 東山文化	銀閣に代表されるこの文化は、華やかな金閣の時代（北山文化）とは対照的に、わび・さびを重んじる精神が特徴です。畳を敷き詰め、床の間を設ける「書院造」という建築様式が確立され、現代の和風建築の基礎となりました。また、茶の湯や生け花といった日本の伝統文化もこの時期に発展しました。
問4	答え 1 町衆	応仁の乱によって幕府の権威が失墜し、京都の市街地が荒廃したため、京都の富裕な商工業者たちは自分たちで町を守り、運営するための自治組織を形成しました。彼らは京都の経済や文化の担い手となり、伝統的な行事である祇園祭の復興にも大きな役割を果たしました。
問5	答え 1 足利義政が京都の東山に山荘を築き、禅宗の影響を受けた簡素で深い味わいのある文化が栄えた。	書院造は室町時代の後半、足利義政が東山に慈照寺を建立した時期の「東山文化」を代表する様式です。この時期は禅宗の精神に基づいた「わび・さび」という質素ながらも精神的な深みを尊ぶ価値観が広まりました。義満の時期の北山文化や、安土桃山時代の桃山文化との違いを区別することが重要です。
問6	答え 1 東求堂同仁斎	慈照寺（銀閣）の境内にある東求堂の同仁斎は、日本最古の書院造の遺構として知られています。畳、障子、付け書院といった現代の和室につながる構造がこの時代に整えられたことは、東山文化における建築の大きな特徴です。
問7	答え 1 座	室町時代に発達したこの組織は、公家や大きな寺社を「本所」として仰ぎ、彼らに金銭や奉仕をささげることで、特定の地域での営業独占権や関所の通行料免除といった特権を得ていました。江戸時代に幕府の公認を得て組織された「株仲間」とは時代設定が異なります。
問8	答え 1 明から大量の銅銭が輸入され、各地の市場での決済に貨幣が普及したこと	定期市の開催回数が月3回（三斎市）から月6回（六斎市）へと増加した背景には、農業技術の向上による余剰産品の増加に加え、日明貿易によって大量の銅銭が明から輸入されたことがあります。これにより、物々交換ではなく貨幣を用いたスムーズな取引が可能になり、地方の商業がより一層活発化しました。日本が明へ輸出していたのは主に刀剣や硫黄などで、金も輸出に回されていました。
問9	答え 1 幕府の将軍や守護大名が、自らの権威や教養を示すための儀礼的な芸能として保護・育成したため。	3代将軍の足利義満は観阿弥・世阿弥親子を厚く保護し、能を幕府の公式な行事で演じられる「式楽（しきがく）」に近い地位へと高めました。このように武家社会の教養や儀礼と結びついたことで、洗練された芸術として現代まで受け継がれる基盤が築かれました。
問10	答え 1 倭寇と呼ばれる海賊による密貿易を防ぎ、正式な貿易船であることを証明するため	当時、東アジアの沿岸部では倭寇（前期倭寇）と呼ばれる海賊が活動し、略奪や密貿易を行っていました。明は倭寇の取り締まりを強く求めていたため、幕府は「勘合」という割印のある札を持参させ、それを持たない海賊船と正式な遣明船を厳格に区別する仕組みを整えました。
問11	答え 1 下剋上	応仁の乱によって幕府や守護大名の支配力が衰えると、下の者が上の者を実力で打ち倒して権力を握る「下剋上（げこくじょう）」の風潮が強まりました。これにより、各地で実力を持った戦国大名が台頭し、日本は戦国時代へと突入していきました。
問12	答え 1 東アジアの沿岸で活動していた海賊である倭寇による密貿易を防止するため	当時、東アジアの海域では倭寇と呼ばれる海賊が活動し、非公式な略奪や貿易を行っていました。明はこれを取り締まり、正式な許可を与えた船のみと取引を行うために、二枚の札を合わせることで本物と確認する「勘合」の仕組みを導入しました。
問13	答え 1 銅銭・生糸・書籍	室町時代、幕府は明から大量の銅銭（永楽通宝など）を輸入することで、国内の貨幣経済を発展させました。また、高級な衣服の原料となる生糸や、当時の知識層が求めた書籍も主要な輸入品でした。一方で、選択肢にある「銅・硫黄・刀剣」は日本から明へ送られた輸出品であり、「鉄砲」が伝来するのは戦国時代に入ってからのことです。
問14	答え 1 銅・刀剣（日本刀）・扇	当時の日本は、豊かな鉱物資源を背景とした銅や、高い工芸技術で作られた刀剣、扇などを明に輸出していました。特に刀剣は明で高い評価を受け、大量に輸出されました。選択肢にある「生糸」や「絹織物」、「陶磁器」は当時の日本が明から輸入していた代表的な品目であり、輸出品と混同しないよう注意が必要です。